「よそもの」「わかもの」「○○もの」が未来を拓く

校長　小園　敦

令和４（２０２２）年３月１日、第43期卒業生60名を加え、秋田県立仁賀保高等学校同窓会員は、８，１６５名となります。

コロナ禍で迎える３回目の卒業式は、来賓の人数を最小限にし、感染対策に十分配慮しながら、工夫と改善を加えて心に残る式典を行います。本校では、一人ひとりが壇上で証書を手にする形態を継続してきました。これは開校時からの伝統であり、他校ではあまり見られない光景です。同窓生の皆さんにとっても、自身の卒業式を思い出す時、感慨深いシーンではないでしょうか。

自称「仁高生」を公言してきた私も、この春をもって３年間過ごしたことになり、第43期生とともに同窓生の仲間入りをした感があります。これを機会に、同窓会員として、仁賀保高校のさらなる発展に、微力ながら関わらせていただければ幸いです。

さて、平成31年４月に入学した私は、仁高出身でも、にかほ市在住でもありません。また、かつて仁賀保高校に勤めた経験もありません。もちろん年齢的には「わかもの」でもありません。したがって私は「よそもの」です。しかしある意味では、「わかもの」かも知れません。

学校に勤務していると、外からの視点が薄れ、学校を成長させる手立てを見失ってしまう傾向にあります。そんな時、転入してきた教職員や、にかほ市との連携協定によってやってくる地域の知恵者、すなわち「よそもの」は、大変貴重で頼もしい存在です。

既存の価値観を認めつつ、時代が求めていることや世の中の変化に対応するためには、新しい発想で、思いきった対応をすることも必要です。「よそもの」だからこそ、気づくことが可能な点を共有し、協力して学校改革を進めて行きたいものです。

ここで言う「わかもの」とは、年齢の定義ではありません。保守的にならず既存の殻を打ち破るバイタリティーを持った人、まずは行動を起こす人、仲間を巻き込んで楽しく仕事ができる人など、若者が本来持っている力を実年齢にかかわらず発揮できる人であり、端的に表現すれば「青春真っただ中にいる人」と言えます。

卒業生諸君は、新たな船出にあたり、「よそもの」と「わかもの」意識を忘れずに、人生を切り拓いてください。新たな生活場所では、「よそもの」として、３年間で培った仁高のスペシャルな学びをヒントに、建設的な意見や行動を期待しております。今後は、母校を外から見つめることになりますが、「よそもの」意識も踏まえつつ「わかもの」らしく、同窓生として仁賀保高校を応援してください。

すでに社会で活躍している同窓会の皆さんも、「わかもの」として熱意と行動力を活かして、母校の発展に御協力をお願いします。

最後に「○○もの」には、通常「馬鹿」が入ります。しかしここには、自分自身にとってのキーワードを入れてください。皆さんには、これから始まる新たなステージで、「よそもの、わかもの、○○もの」を自認して、大いに活躍することをお祈りいたします。

木内芽空・生徒会長がインターネットラジオに出演

にかほ市が運営する「にかほのほかに」が、毎週発信するインターネットラジオ番組「あなたのおばんです」vol.77に、令和３年12月17日㈮木内芽空・生徒会長が出演しました。「コロナ禍中の高校生活」と題し、コロナ禍で思うようにいかないことも多い中で生徒会長を務め、楽しい高校生活が送れるように奮闘した経験を語っております。卒業を目前に控えた今、進路についてのリアルな心境についても語りました。

前週のvol.76出演者には情報メディア科・小西一幸教諭も登場し「プログラミング教育」について熱く語っております。

【同窓会２期生・齋藤徹さんが聖火ランナーで快走！】

１２月２日㈭、仁賀保高校第２期生・齋藤徹さん（にかほ市伊勢居地）が来校され、今夏、東京オリンピック２０２０聖火ランナーとして走行した際の聖火トーチとランナーウェアを、学校図書館に展示させていただきました（※現在は展示終了）。コロナ感染期第５波の渦中での２０２０東京オリンピックでしたが、バレーボール指導者でもある齋藤さんは、６月９日に堂々と聖火ランナーとして大潟村を走り抜き、五輪聖火を見事にリレーされました。母校・仁賀保高校も、にかほ市とリベリア共和国のホストタウン事業にて、リベリアチームを応援し、オンラインで国際交流を深めました。

東京五輪２０２０聖火ランナーとして疾走される齋藤徹さん（仁高同窓会２期生）

仁高図書館に展示された聖火トーチとランナーウェア
※展示は終了しました。

同窓会32期生・藤本タツキさん「このマンガがすごい！オトコ編」２年連続１位に選出

令和３年12月７日㈫、宝島社が主催する「このマンガがすごい！２０２０」にて、にかほ市出身、仁賀保高校第32期生（情報メディア科卒業）の藤本タツキ氏の作品『ルックバック』集英社刊が、昨年の『チェーンソーマン』に続いて、２年連続のオトコ編１位に選出されました。同社のランキング開始以来、１位に２回も選出された作家は藤本タツキ氏が初めてです。仁賀保高校同窓生の栄誉に、在校生・教職員一同、元気を与えられております。２０２２年中には、アニメーションスタジオＭＡＰＰＡが『チェーンソーマン』を映像化して放送される予定です。今後のご活躍にも、ご期待申し上げます。

集英社から刊行された藤本タツキ氏の『ルックバック』

校門前看板をリニューアル

校舎正門前の看板をリニューアル設置しました。仁賀保高校生が地域からの学びを通し、自ら成長して明るい未来につながることができるようにという想いを込めたキャッチフレーズ『仁高でつなごう地域と未来』です。美術科・小柳順先生がデザインされた「仁高にいこう」シンボルマークも、描かれております。

仁賀保高校公式インスタグラムが開設！

仁賀保高校の教育活動を発信しております。ぜひフォローをお願い申し上げます。

仁賀保高校
公式インスタグラム
を開設しました

NIKO.NIKO8687

学校生活の一コマを
更新しております
ぜひフォローしてね